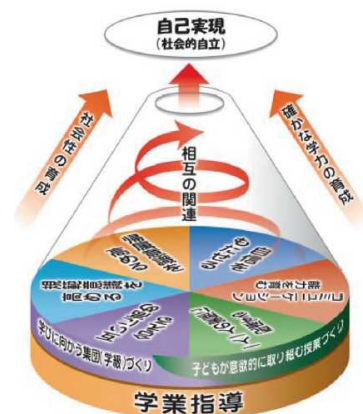


「主体的・対話的で深い学び」の中でも、「対話的な学び」を実現させるためには、子ども同士の協働が欠かせません。そして、子ども同士の協働が円滑に進むには、学級（ホームルーム）集団の中に、よりよい人間関係が構築されていることが前提となります。本県が推進している学業指導は、そのような集団をつくるための重要な取組です。

右のイメージ図にもあるように、学業指導には、「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の二つの側面があります。

ここでは、その一つの側面である「学びに向かう集団づくり」と「対話的な学び」の関係性について考えます。

「学びに向かう集団づくり」には、下に示した三つの視点があり、「学業指導の充実に向けて」（平成24年3月 栃木県教育委員会）では、これらの視点について、次のように説明しています。



学業指導のイメージ図

【帰属意識が高い学級】

一人一人が学級に所属感や連帯感を感じる居心地のよい学級です。

【規範意識の高い学級】

集団生活や対人関係におけるルールが児童生徒に共有され、当たり前のこととして定着している学級です。

【互いに高め合える学級】

児童生徒に建設的な相互作用がある学級です。

つまり、「学びに向かう集団づくり」に取り組むことは、「対話的な学び」を実現するための鍵になるということが分かります。子ども同士が対話し、思考を広げ深めていくためには、自分の考えを安心して伝えたり、分からないところを教え合ったり、友達の考えに共感したり、異議を唱えたりすることが必要です。それを可能にするのは、信頼関係や相手への敬意、また、集団の一員としての所属感や連帯感等です。学業指導の「学びに向かう集団づくり」は、そのための基盤づくりと言えます。